

# 千葉大学

授業と委員会の両輪整備により、ISO14001/ISO50001運用の中核業務を学生が担う「千葉大方式」を実現。学生主体の多彩な活動を支える「目に留まり、心を動かす」デザインの力



千葉大学 社会科学研究院  
倉阪秀史 教授

## 千葉大学

<http://www.chiba-u.ac.jp/>

西千葉キャンパス・本部

所在地：千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

## 概要

1949年（昭和24年）、千葉医科大学・千葉師範学校・東京工業専門学校・千葉農業専門学校等を含む新制国立大学として発足。その後の拡充改組により、現在10学部11研究科と多数の附属施設を有する。多数の理系学部および国立大学唯一の学部を多数設置する首都圏の総合大学として、特色ある研究・教育を行う。

環境マネジメントシステムISO14001とエネルギーマネジメントシステムISO50001。日本の大学法人として唯一、この二つの国際規格の認証を取得・運用する千葉大学。同学では、その運用を実務教育の一環として単位化（科目化）し、履修生をシステムの中核的な担い手の「学生委員」と位置付けることで、運用の質と継続性を維持しつつ学生の主体的な行動を促す「千葉大方式」を確立している。その教育効果と、活動を支えるクリエイティブツールについてうかがった。

### アドビ製品を使用している設備

環境ISO学生委員会室の常設PC、および学生委員個人所有のPC  
使用製品：Adobe Creative Cloud  
・ Illustrator  
・ Photoshop

### 製品の利用目的

学生・教職員を含む全学を対象とする環境活動啓発ツールの制作、環境ISO学生委員会で実施する各種活動の周知宣伝ツールの制作等

### Adobe Creative Cloudを採用した理由

デザインツールとして代表的なソフトウェアであり、身に付けたスキルは卒業後に社会でも生かせる

## 学生主体の「千葉大方式」でISO14001/50001を運用する、日本唯一の大学法人

千葉県下の4キャンパスに10学部11研究科と多数の附属施設を擁し、約14,000人の学生と3,400人の教職員が集う千葉大学。同学では2004年度から環境マネジメントシステムISO14001、2013年度からエネルギーマネジメントシステムISO50001の認証を取得、運用している。環境規格の認証を得る大学法人も増加するなか同学を特色づけるのが、学生主体のシステム構築・運用を行う「千葉大方式」だ。同学において学生は大学の環境マネジメント組織の一員であり、学生組織である環境ISO学生委員会のメンバーは、環境目的や計画の原案作成、研修講師、内部監査員、環境報告書の編集といったまさに中核業務を担う。またリサイクル・学内緑化・構内美化・学外教育などの多彩な環境活動にも取り組んでいる。この方式により、学生は主体的な行動や創造性を発揮し、また大学は経費や職員の負担を可能な限り削減しつつ、高い水準でマネジメントを維持することが可能となる。同学のこのような取り組みは国内外から高い評価を集め、地球環境大賞文部科学大臣賞をはじめISCN賞<sup>\*1</sup>、インターナショナル・グリーン・ガウン賞<sup>\*2</sup>など数多くの表彰も受けている。

## 環境マネジメントをカリキュラム化、幅広いスキルを身に付ける実務教育の場

学生主体を目指すうえで、学生の知識の水準と、活動の継続性が課題となる。そこで同学は、普遍教育（教養教育）科目「環境マネジメントシステム実習Ⅰ～Ⅲ」を開設し、履修生または履修経験者を環境ISO学生委員会の正会員とすることで、学生活動を制度・教育面から支援している。委員会の学生数は例年、1年生80～90名、2・3年生各30～40名程度。この体制を担当教員の倉阪秀史教授は「実務教育の場としても重要」と説明する。「当初はアポイントなしで他部署を訪れるなどの失敗もありました。そこで現在の実習Ⅰでは、環境管理の基礎知識に加えメールや企画書の書き方、アポイントの取り方など、具体的なビジネスマナーも含めた仕事のスキルも学びます」。また学生委員は、例年4月の全学向け「環境ISO基礎研修」などの講師として、プレゼンの機会にも多く恵まれる。2018年度の学生委員会委員長、上田幸秋さんは「環境ISO基礎研修では準備済みの原稿を読み上げますが、経験を重ねるとその読み方で聴衆の反応が変わることに気付きます。次第に対象者が教職員か学生かで話し方を変えることを学びました」と振り返る。



環境マネジメント業務の中核を担う「環境ISO学生委員会」の委員会室が設置された、西千葉キャンパス学際研究棟



環境ISO学生委員会委員会室の内部。学生委員がいつでも自由に使えるPCとソフトウェア、コピー機等が設置されている



法政経学部 政治学・政策学コース 3年生 上田幸秋さん(左)と、教育学部 小学校教員養成課程 3年生 内山桜さん(右)。二人が手にしているのは、入学式の際、全新生に配布した啓発用ブックカバー。上田さんは委員長として、内山さんはデザイン班として制作に携わった



全学の学生・教職員を対象とする「環境ISO基礎研修」のパンフレット。より良い表現を追求し毎年改訂を重ねる



7月開催の省エネ・省資源イベントの配布用うちわや、小学生向けの環境授業教材(ノート)などもデザインした

## 学生がいつでも自由に使える空間と施設を整備、デザインソフトをインストール

システムの円滑運用と卒業後の進路、双方に生かせる実務教育とともに、制度のスタート時点で倉阪教授が配慮したのが、学生委員の活動スペースづくりだった。「学生がいつでも自由に集まれる場所、作業できる場所が必要と考え、PCとネットワーク環境、コピー機などを備えた専用室を用意しました。現在では、いつも誰かがいて何かをしている、学生の『居場所』として定着しているようです」。また学生委員の業務には当初から、システム運用に必須の各種書類の作成も期待されていたことから「オフィス系ソフトだけでなく啓発ツール制作のためのデザインソフトも必要と考え、IllustratorとPhotoshopを導入しました。定番ツールですし、身に付けた操作スキルが卒業後も生かせることも利点です」。同同学部にはデザインコースがあり、計100ページ近くなる「環境報告書」の制作には同学科の学生の協力を得ているが、学生委員としてデザイン制作にあたるメンバーは学部・学科を問わない。「教員からソフトウェアの操作に関する指導は行っていませんが、学生の自主的な勉強と先輩から後輩への継承により、毎年『エース級』の人材が育ち、活躍してくれます」。

## 学生同士の学び合いでデザインを身に付け、活動に必要なツール制作を一手に担う

学生委員会の一員として制作活動にあたるのは、「デザイン班」に所属するメンバーだ。「班」とは特定のテーマに沿った環境活動を実践する小人数のグループで、リユース・リサイクルや光熱水費削減、構内整備や緑化、学生や構内事業者との連携、学内外での環境教育、さらには2009年度に法人格を取得した特定非営利活動法人(NPO)としての業務まで、幅広い活動を担当する班が設置されている。デザイン班は各活動班の依頼に応じ、主にIllustratorやPhotoshopを用いて、告知用のポスター類、ステッカーやノベルティといった啓発ツールなど、活動に必要な制作物のデザインを一手に担っている。環境ISO基礎研修で用いるパンフレットを、毎年ブラッシュアップしながら制作するのも重要な仕事だ。2年生でデザイン班に所属し、現在はその統轄部門となる情報部で部長を務める内山桜さんによると「IllustratorやPhotoshopの使い方は、毎年6月に基本的な用語や図形の描き方などの勉強会を実施し、その後はポスターなど実際の制作物に取り組みながら、自分で調べたり先輩に質問したりして身に付けていきます。入学までツールに触れたことがない人も多いのですが、活動を通じ使いこなせるようになります」。

## キャンパスに集う一人ひとりの意識と行動を「デザインの力」で変えていく

委員会の中の班として制作を行うのは、経費削減のほかに、活動上のメリットもあるようだ。「デザイン班は、ほかの班の活動に比べると裏方的。でも学生委員会の一員として活動することで、どんな作業や苦勞があるのかを他のメンバーに共有できます。制作の意図を言葉で伝達し合うのは難しいですが、委員会室の日常的なコミュニケーションのおかげで意見交換できています」と内山さん。一方、委員会活動全体を俯瞰する上田さんは「一見裏方的かもしれないけれど、デザイン班は委員会活動にとって、なくてはならない仕事をしていると認識しています」。もとより環境ISO学生委員会は同学の環境活動を推進していく立場であるが、そのためには、学生や教職員を含めキャンパスに集うすべての人々を巻き込み、一人ひとりの意識と行動を変える必要がある。デザイン班の活動は「人の目に留まり、心を動かす」デザイン本来の力を、委員会活動に生かすものと言える。

## 実務経験から生まれた多様な学びを、社会でも生かしていきたい

こうした学生委員会の活動を主軸とする全学的な取り組みが実を結び、同学で発生する環境負荷は年々削減されている。ISO認証取得前の2004年度と2015年度の比較では、総エネルギー投入量は約10%、水資源使用量は約53%、一般廃棄物排出量は約43%の削減を達成した。生協レジ袋の有料化や古紙回収など、学生委員会の発案と努力で実現し、環境負荷を削減しつつ得られた収益がまた新しい活動の原資となる好循環も生まれている。また卒業生アンケートでは80%以上の学生が「社会に出てから学生委員会での学びが役に立った」と回答しており、2年次に活動した「紙班」で企業とのコラボレーションも経験した上田さんは、「学外の都合により動かせない締切を前に、班内の意見調整をしたり、対面ではなくメールで制作物に関するやり取りをしたりと、様々な経験をしました。卒業後もこれらの実務経験を生かしていきたい」と話す。内山さんも小学校教員養成課程で学びつつ、デザイン系の進路を視野に入れているという。「以前から、小学校で用いる教材作りなどにアドビのツールを活用していたのですが、デザイン班の経験を通じ、印刷会社へ印刷物を発注するにはIllustratorなどが必須のことが多いと知りました。そうした知識やIllustratorの操作スキルを、社会に出て役立てていければと思います。また今後は、動画作成などにも取り組んでみたいです」。ISO運用とともに、環境マネジメント活動を実務経験の場として生かす同学の方針もまた、着実な成果を得ていると言えるだろう。



アドビ システムズ 株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2

ゲートシティ大崎イーストタワー

www.adobe.com/jp/

Adobe Systems Incorporated

345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704

USA

www.adobe.com

\*1 持続可能なキャンパスプロジェクトの表彰制度「Sustainable Campus Excellence Awards」が与える賞。30カ国・80以上の大学が加盟し、キャンパスの環境負荷低減、施設マネジメント、大学の戦略・運営などについて議論する国際大学ネットワーク「ISCN (The International Sustainable Campus Network)」が運営する。

\*2 大学における優れた持続可能性の取り組みの表彰制度「Green Gown Awards」が与える賞。イギリスを本拠地とする環境大学協会「EAUC (The Environmental Association for Universities and Colleges)」が運営し、英国とアイルランド、オーストラリア、フランス語圏、GUPES (アフリカ・アジア太平洋・ヨーロッパ・ラテンアメリカ・カリブ海・北米・西アジアからなる6つの国連環境計画地域)に制度導入されている。